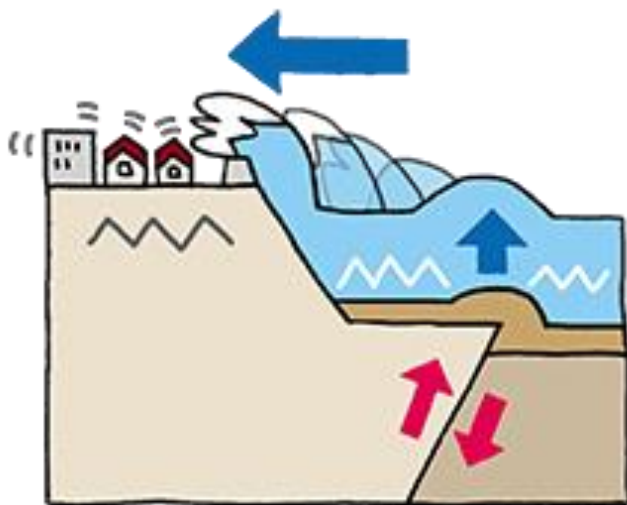


いわき市防災講座 番外編

地域の防災活動③

『登校中を想定した津波避難訓練』



いわき市は、11年前の東日本大震災、3年前の東日本台風と、大規模な自然災害に見舞われ、また、毎年のように震度5を観測するような大きな地震が発生しています。

いわき市では、近年、頻発化、激甚化する自然災害に備えて、地域住民のみなさんが、防災意識や防災知識の向上を図る「地域の防災活動」を積極的に支援しています。

いわき市公式YouTubeを活用した、「いわき市防災講座」では3回にわたって、令和4年度に、地域のみなさんが協力、連携して実施した、新たな防災の取り組みを紹介しますので、みなさんのまちで行う防災活動の参考としてください。

『登校中を想定した津波避難訓練』

登校中を想定した津波避難訓練は、学校と、地域とが連携した訓練となりました。

これまで、学校が実施してきた避難訓練は、主に授業中に「地震・火災」が発生した場合を想定した訓練でしたが、今回は、登校中や下校中など児童のみで行動する時間帯に災害が発生した場合を想定し、自らの命を守るための判断力を養うことを目的に訓練を実施しました。

また、高齢化やコロナ禍により、地域の防災活動が低調となる中で、学校が主体となり自主防災会等と連携した防災訓練を実施することで、これまで地域の防災活動に参加が少なかった若い世代や子どもたち、地域の要配慮者利用施設などが一体となった訓練を実施することができました。

実施概要

- 実施日時
令和5年1月18日（水）7時30分～9時00分
- 参加機関
いわき市立錦東小学校、中田区、いわき南警察署、消防団第3支団
第一分団、勿来消防署、勿来支所、危機管理部災害対策課
- 参加者
錦東小学校児童 146名
地域住民等 53名 計199名
※ 訓練に参加した、学校職員、警察官、消防団員等は未計上
- 訓練想定
令和5年1月18日（水）午前7時30分に福島県沖を震源とする
震度6強の地震が発生し、いわき市沿岸部に「大津波警報」が発表。

訓練内容①

○ シェイクアウト訓練

各登校班集合場所で、周りの安全を確認しながら、落下物などから身を守る「シェイクアウト行動」を実施しました。



訓練内容②

○ 避難訓練

① 児童及び地域住民の避難

消防車両や警察車両による避難広報や、学校から配信されたメールの情報を基に、最寄りの避難ビルへ地域住民や保護者とともに避難訓練を実施しました。

② 要配慮者利用施設の避難

要配慮者利用施設が、津波浸水想定区域外（南部アリーナ）までの自動車避難訓練を実施しました。



○ (続)避難訓練の様子



○ (続)避難訓練の様子



○ 広報訓練

消防車両、警察車両が津波災害時における避難広報訓練を実施しました。



○ 通報訓練

実際の災害を想定し、災対地区本部に支援を求めるため、避難完了後、錦東小学校では教頭先生が、災害公営住宅錦団地では、中田区長が、勿来地区本部（勿来支所市民課）に通報。津波避難ビルに避難者がいること、怪我人、急病人はいないことなどを報告しました。



○ 講評・講話 ①

・ 訓練講評

勿来消防署より、訓練の実施状況について講評をいただきました。



○ 講評・講話 ①

- ・ 防災講話 「登下校中の児童がとるべき避難行動と、保護者や地域住民が実施すべき避難について」



○ 蹴破り戸蹴破り訓練

津波避難ビルに指定されている錦東小学校に設置されてある、蹴破り戸について、教職員等が不在の際に災害が発生した場合を想定し、体育館に訓練用の蹴破り戸を準備し、蹴破り訓練を実施しました。



まとめ

錦東小学校は、市内でも、海に比較的近い場所に位置し、学区が津波浸水想定区域に含まれるなど、津波災害のリスクが非常に高い学校です。

今回は、学校から、登下校中などの際に、子どもたちを災害から守りたい、という思いと、地域住民のみなさんの、子どもたちを地域の力で守るという思いが一致し、学校と地域が連携した訓練となりました。

災害において、自分の命を守る「自助」がまず重要となりますが、登下校中の子どもたちは、携帯電話やスマートフォンなどを持っておらず、災害の情報を得ることも難しい場合もあり、そうした子どもたちを「共助」の力で守る必要があります。

地域住民のみなさんや、学校の先生方が、「子どもたちを守るため、より実践的な訓練を実施したい」というご要望があれば、是非、災害対策課まで御連絡ください。

